

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	宮 崎 県
-------	-------

I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	都城市立大王小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	3	3	3	0	19	28
児童数	107	97	119	100	107	97	0	627	

研究の概要

1. 研究主題

<p>確かな学びを育てる学習指導法の研究 Research of methods and techniques of instruction method which raises certain learning</p> <p>副題 基礎・基本の定着を図るきめ細かな指導を通して</p>

2. 研究内容と方法

- 算数科を中心とした教科の指導形態の工夫と改善
- 習熟度別グループ指導の各コースの指導方法の工夫・改善
- 学力向上を図る校内環境の整備
- 学力向上を図る校外環境の整備

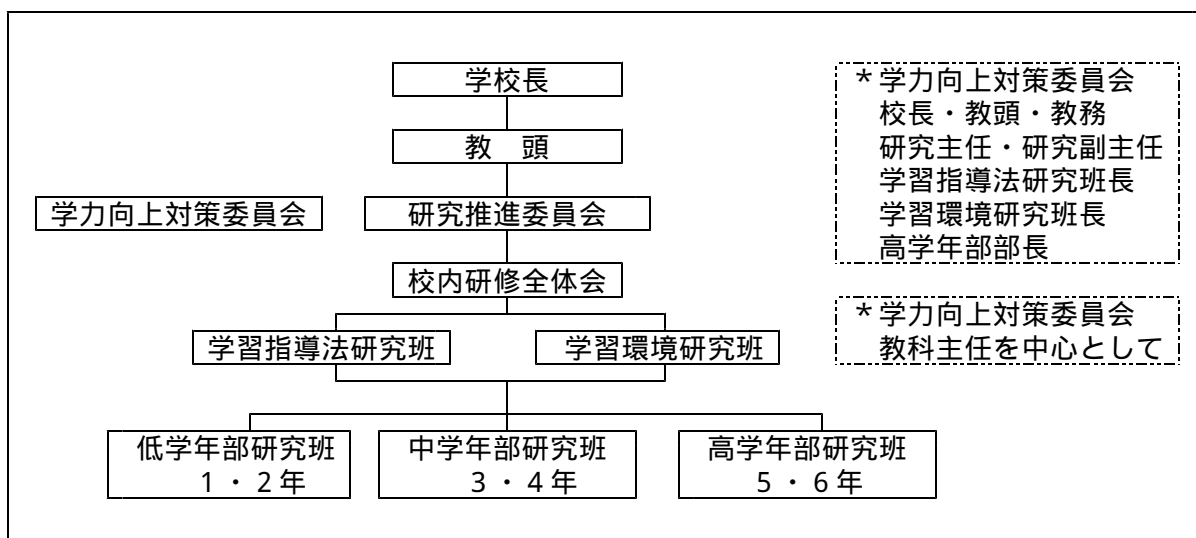
班 別 研 究 内 容	学 年 部 ・ 学 年 別 研 究 実 践
学 習 活 動 研 究 班	具 体 的 実 践 の 経 過
<p>教科の指導形態の工夫・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数科において、学力向上を図る習熟度別グループ指導のコースごとの効果的な指導のあり方 ・ 国語科において、学力向上を図る習熟度別グループ指導の効果と問題点の探究 各コースの指導方法の工夫・改善 ・ 本校の国語力の捉え方 ・ 算数科に生かす国語力の捉え方 ・ 国語力を生かした算数科の学習指導過程の導入 <p>・ 発展的な学習・補足的な学習を支える教材・教具の整備として発展的問題・補足的問題のマニュアル作成及び問題の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確かな学びにつながる、自分への振り返りを取り入れた評価の工夫 (メタ認知の活用等) <p>・ 確かな学力を育てるために役立つ教育機器(コンピュータ等)の活用</p>	<p>各学年部を中心とした検証授業の実施</p> <p>算数科は第1回、第2回検証授業研究会を通して全学年で実施。国語科は第3回検証授業研究会で低・中・高の学年部別に授業実践を行い、効果的な指導のあり方を探究してきている。</p> <p>全体研修会を通しての理論研究会と、各理論に対する研究協議と考え方の確立</p> <p>算数科の学習過程の中に、児童の考え方を発表する場、話し合いの場を設け、「なぜ」「どうして」の追求から考え方や解き方を深めさせている。</p> <p>各学年で、昨年度作成した補充問題を計画的に活用するとともに、本校独自の発展問題の作成に取り組んでいる。</p> <p>各單元ごとに記述式の自己評価カードを作成し、児童が自分の学習を振り返る参考資料としての活用や指導に役立つ評価カードのあり方について研究を進めている。</p> <p>具体的な操作活動や視覚的效果からの学力向上ということで教育機器の活用を各学年で推進している。</p>

班 別 研 究 内 容	学 年 部 ・ 学 年 別 研 究 実 践
学 習 環 境 整 備 研 究 班	具 体 的 実 践 の 経 過
学力向上を図る校内環境の整備 ・ 学力向上に関わる児童の実態調査 ・ 基礎学力の定着を図る学習のしつけマニュアル作成 ・ 国語力を高める環境の整備 学力向上を図る校外環境の整備 ・ 家庭との連携整備 (家庭学習・しつけ) ・ 中学校との連携整備 ・ 学力向上事業の広報活動 (ネット公開活動の整備)	児童の5月実施学力テストの分析,算数科授業,国語力についてのアンケート調査を行い分析をすすめてきた 環境整備班で学習のしつけマニュアルを作成し,各家庭に配布。児童の学校生活自己評価を定期的実施し,併用することで家庭での学習力も高めようとしている。 音読カードの作成と活用 言語環境を整えたり,学習に関連した事項についての常時掲示物の整備を行っている。 (姿勢図・鉛筆の持ち方・発表マニュアル訓練・正しい話し方) 家庭学習のしおり ・ 学習の基礎・基本として身に付けさせたい内容を家庭に知らせる。 ・ 定期的に学習内容を知らせる活動を行っている。 中学校との連携(小松原中学校) ・ 連携推進委員会を開き,協力して取り組めることを模索している。 ・ 授業見学,合同研修会の実施(2回) ホームページの開設 「研究だより」の発行

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	基礎学力の向上と基礎・基本の定着 教科の指導形態の工夫・改善 ・ 算数科の学力向上を図る習熟度別グループ指導の効果的なあり方 ・ 国語科の学力向上を図る習熟度別グループ指導の効果と問題点 各コースの指導方法の工夫・改善 ・ 国語力を生かした算数科の学習指導過程の導入 ・ 発展的な学習・補充的な学習を支える教材・教具の整備 ・ 確かな学びにつながる,メタ認知力の考え方を取り入れた評価の工夫 ・ 学力向上に役立つ教育機器(コンピュータ等)の活用 学力向上を図る校内環境の整備 ・ 学力向上に関わる児童の実態調査 ・ 基礎学力の定着を図る学習のしつけマニュアル作成 ・ 国語力を高める環境の整備 学力向上を図る校外環境の整備 ・ 家庭との連携整備 ・ 中学校との連携整備 ・ 学力向上事業の広報活動
平成16年度	確かな学びの育成 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導法の工夫 ・ 算数科におけるきめ細かな指導の充実 ・ 国語科におけるきめ細かな指導の確立 ・ 自己の気づきを振り返る力を身につけさせる工夫 学んだ基礎・基本を総合的に生かそうとする能力や態度の育成 ・ 意欲と自覚を促す指導の確立 ・ 学ぶ喜びを味わわせる学習指導法の工夫 ・ 国語力の育成とそれを生かした指導の充実 学力向上に関わる環境の整備 ・ 校内環境の整備・充実 ・ 中学校・家庭との連携の強化

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

算数科において少人数指導や習熟度別グループ指導を進めたことにより、一人一人の児童の能力に、より合った学習を進めることができ、学力の全体的な底上げと向上を図ることができた。

定期的・計画的な計算練習により、計算力・集中力が向上した。

漢字力、計算力ともどの学年も力を付けてきている（都城市小学校基礎学力定着度調査の結果から）。

家庭での学習のポイントを示す資料を作成することができ、学力向上の大きな鍵となる家庭との連携体制の基盤を作ることができた。

小・中合同の研修会をもったことで、それぞれの学校がねらっているもの、学力向上の上で協力しあえる部分が具体的になり、これからの連携の基盤を整えることができた。

2. 今後の課題

算数科・国語科におけるきめ細かな指導を通して、学力向上を、どう見える形で出すことができるのか十分に検討していく必要がある。特に、国語科における学力向上を、即、見える形というのはかなり難しいと考えられる。

基礎・基本の確実な定着やさらなる発展に取り組む意欲など、すぐに結果として出るものと後々結果に結びついてくるものもあり、その両方を兼ね備えた指導のあり方を追究していくことが大切だと考える。

児童の学力向上への道を、意識面、ドリル面、指導面、環境面など、いろいろな方向から探り、さらに多様な指導法を見いだしていく必要がある。

これまでの研究成果が維持できるように、私たち教師一人一人の意識を高めておくことも大切だと考える。

学力把握のための学校としての取り組み

- ・ 学力テストの実施
- ・ 基礎学力調査の実施
- ・ 到達度テストの実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 広報活動の整備等（ホームページ，研究部便り）
- ・ 研究紀要作成

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭科
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無